

2024 年度シラバス

中学校 1 年



駒沢学園女子中学校

科目名(2024 年度)
中学 1 年 国語 (現代文分野)

単位数	5 単位の 3
担当	天野 友子
教科書	国語 1 (光村図書)
対象生徒	中学 1 年

1. 授業の目標
- 「言葉」を楽しみ、文学作品に親しむ気持ちを育てる。

到達目標

(ア) 本を年間 30 冊以上読み、語彙力・表現力を身に付ける。
(イ) 漢検 5 級以上を取得する。
(ウ) 予習をして授業に臨み、学習の習慣を定着させる。

2. 副教材・参考書
- ・国語ワーク (光村教育図書) ・新国語便覧 (秀学社) ・セレクト漢字検定 5 級～2 級

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等
- (ア) 予習・復習を宿題という形で随時出すので、生徒たちは必ず宿題を終えた上で授業に参加する。
(イ) 授業の内容は毎時間明確に提示し、終了時に確認する。
(ウ) 学習活動・課題は積極的に取り組めるよう工夫する。
(エ) 提出物は完成した形で、期限を守って提出する。

4. 宿題・課題・再試について
- (ア) 宿題…原則、毎時間出す。
内容は授業で学習した範囲の復習と次の授業の予習を中心とする。
(イ) 課題…1 単元終了ごとに単元別試験を実施する。レポート作成などを行う場合もある。
(ウ) CRange テストを導入し、漢検 5 級以上の取得を目指して学習とテストを繰り返す。

5. 評価の基準について
- ・単元試験・単元まとめ試験の得点 50%、学力テスト 30%、パフォーマンス評価 20%により評価をする。
・以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題(単元試験)	応用問題(学力試験)	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題を解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他
- CRange 実施については、以下の通りとする。
- ① 1 週間に 1 度、授業時間内で「セレクト漢字検定 5 級～2 級」内の「読み・漢字検定問題演習」を Microsoft Forms 上のテストにて実施。
② 漢字の書き問題は、新出漢字も含めて毎回の単元別試験に盛り込む。
③ 1 週間に 1 度、試験範囲の漢字練習を「セレクト漢字検定 5 級～2 級」に直接取り組み、提出させる。
④ 100 点満点、合格点を 70 点以上とし、不合格の場合は適宜課題や補習を課す。

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	期末	ガイダンス 詩『朝のリレー』 詩『野原はうたう』 物語『シンシュン』 情報整理のレッスン 比較・分類 漢字の組み立てと部首・漢字に親しもう 1 説明『ダイコンは大きな根？』 説明『ちょっと立ち止まって』 意見と根拠 漢字に親しもう 2 情報社会を生きる 詩・解説『詩の世界』 説明『比喩で広がる言葉の世界』 指示する語句と接続する語句
二学期	期末	物語『大人になれなかった弟たちに……』 方言と共通語 小説『星の花が降るころに』 漢字の音訓 記録『「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ』 原因と結果 漢字に親しもう 3 意見『「不便」の価値を見つめ直す』 漢字に親しもう 4 詩『大阿蘇』
三学期	学年末	小説『少年の日の思い出』 漢字に親しもう 5 随筆『随筆二編』 さまざまな表現技法 漢字の成り立ち 漢字に親しもう 6 詩『さくらの はなびら』

対象生徒	中学 1 年
単位数	5 単位の 1
担当	天野 友子
教科書	国語 1（光村図書）・副教材
対象生徒	中学 1 年

科目名 (2024 年度)

②中学 1 年 国語（古典・文法分野）

1. 授業の目標

- 古典への興味関心を育てる。
- 自分の考えや感想を整理して、文章にする。
- 表現活動を通じて、伝え合う力を養う。

到達目標

- (ア) 古文・漢文を読み慣れる。
- (イ) 百人一首を覚える。
- (ウ) 文法的な知識を得る。

2. 副教材・参考書

- ・国語ワーク(光村教育図書) ・新国語便覧（秀学社） ・文法の学習(浜島書店)
- ・小倉百人一首（京都書房）

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- (ア) 古文・漢文のリズムを体得できるように音読をする。
- (イ) 予習・復習を宿題という形で随時出すので、生徒たちは必ず宿題を終えた上で授業に参加する。
- (ウ) 授業の内容は毎時間明確に提示し、終了時に確認する。
- (エ) 学習活動・課題は積極的に取り組めるよう工夫する。
- (オ) 提出物は完成した形で、期限を守って提出する。

4. 宿題・課題・再試について

- (ア) 宿題…原則、毎時間出す。
 - 内容は授業で学習した範囲の復習と次の授業の予習を中心とする。
- (イ) 課題…1 単元終了ごとに単元別試験を実施する。暗唱テストなどを行う場合もある。
- (ウ) 4 週間に 1 度、新中学問題集を 1 課題ずつ自宅学習し提出する。

5. 評価の基準について

現代文分野と合算し評価する。

6. その他

書写について

4 週間に 1 時間程度の書写の時間を設ける。 担当教諭：酒井 篤史

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	期末	百人一首 1～40
		文法（言葉の単位） 文法（文節の働き） 文法（文の組み立て） 文法（単語の種類：自立語と付属語・活用） いろは歌 年中行事・月の異名
二学期	期末	百人一首 41～80 文法（単語の種類：品詞） 文法（体言） 文法（用言：動詞） 文法（用言：形容詞）

		蓬萊の玉の枝 月の満ち欠け
三 学 期	学 年 末	百人一首 81～100 文法（用言：形容動詞） 文法（副詞・連体詞） 今に生きる言葉 故事成語

対象生徒	中学 1 年
単位数	5 単位の 1
担当	天野 友子
教科書	副教材・指定図書
対象生徒	中学 1 年

科目名(2024 年度)

中学 1 年 国語（講読・表現分野）

1. 授業の目標

「言葉」を楽しみ、文学作品に親しむ気持ちを育てる。

教科書の「話すこと」「聞くこと」「書くこと」の分野を学習し、基礎を身に付ける。

到達目標

- (ア) 本を年間 30 冊以上読む。
- (イ) 読んだ本について感想や意見を書くことができる。
- (ウ) 自分の考えをスピーチすることができる。
- (エ) 根拠を明確にして意見をまとめることができる。

2. 副教材・参考書

・新国語便覧（秀学社） ・プリント

3. 学習を受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- (ア) 学習活動・課題は積極的に取り組めるよう工夫する。
- (イ) 提出物は完成した形で、期限を守って提出する。

4. 宿題・課題・再試について

- (ア) 宿題…1 か月単位で出す。
- (イ) 課題…1 単元終了ごとに、レポート作成を実施する。

5. 評価の基準について

課題の評価を中心として評価をつける。その他の基準としては宿題の提出状況とする。
上記の課題は主にパフォーマンス評価の中に盛り込むこととする。

6. その他

指定図書 宮澤賢治作『銀河鉄道の夜 宮澤賢治童話集 3』（講談社青い鳥文庫）

単位数	4
担当	小西 萩原
教科書	数研出版 中学数学 1
対象生徒	中学 1 年 必修

1. 授業の目標

- (1) 数を正の数と負の数拡張し、数の概念についての理解を深める。また、文字を用いることの意義及び方程式の意味を理解するとともに、数量などの関係や法則を一般的にかつ簡潔に表現し処理できるようにする。
- (2) 平面図形や空間図形についての操作や実験などを通して、図形に対する直感的な見方や考え方を深めるとともに、論理的に考察する基礎を培う。
- (3) 変化や対応についての見方や考え方を深め、関数関係を理解し、それを表現したり用いたりする能力を伸ばす。

2. 副教材・参考書

数研出版 中学数学 完全準拠 スタンダード問題集 1
新学社 数学のベーシックマスター 1 年

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

予習のポイント：教科書の内容を読み、その単元の関係ある小学校の内容をしっかりと復習し理解しておく。

復習のポイント：その日の授業で解いた問題を、もう一度解き、答え合わせをする。この勉強を毎日積み重ねることにより、確実な力を身につける。また、1つの単元が終わるごとに、問題集等でもう1度自分の理解・記憶を確かめることも大事である。

基本的な 学力がついたら問題集の応用問題を数多く解き、数学的な応用力・思考力を身につくように努力する。

4. 宿題・課題・再試・評価について

M'Range Test は毎週金曜日に課題を提出し、金曜日にテスト。70点以下の者は月曜日に再試をし、理解できていないときは補習を行う。

宿題は、プリント、問題集など適宜出題する。

定期試験 50 点以下再試 50%の評価

学力試験 30%の評価

PH 評価 M レンジテスト 10%の評価 提出物 10%の評価

5. 評価の基準について

・以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題(単元別試験&まとめテスト)	応用問題(単元別試験&まとめテスト)	パフォーマンス(提出物・小テスト等)
A	80%~100%	80%~100%	80%~100%
B	30%~80%	30%~80%	30%~80%
C	0%~30%	0%~30%	0%~30%
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

・1月の数検で全員5級取得を目指す。

年間指導計画				
学期		単元テスト	授業内容（教材）	指導内容・単元目標・実験・備考等
第一学期		単元テスト1 (5月)	1章 正の数と負の数 ①正の数と負の数 ②加法と減法	数を負の範囲まで拡張する必要性を感じ、負の数の性質を理解することができる。正の数と負の数の加法減法の意味を理解し、それらの計算に習熟できる。
		単元テスト2 (5月)	③乗法と除法 ④いろいろな計算 ⑤素因数分解	正の数と負の数の乗法除法の意味を理解し、四則演算ができる。またそれを通し、数の概念について理解することができる。
		単元テスト3 (6月) 単元4（テスト無）	2章 文字と式 ①文字と式	文字を使って式に表すことの良さを知る。文字式の表し方の約束を理解し、数量を文字式であらわすことができる。
		6月25日～ 単元まとめテスト	②文字式の計算	文字式の簡単な計算ができる。数量の間の関係を表すことができる。
第二学期		単元テスト5 (9月)	3章 1次方程式 ① 1次方程式 ② 1次方程式の利用	方程式とその解を理解することができる。等式の性質を使って方程式を解くことができる。1次方程式を使って、いろいろな実際の問題を解決することができる。
		単元テスト6, 7 (10月)	4章 比例と反比例 ①比例 ②反比例 ③ 比例、反比例の利用	事象の中から比例や反比例の関係を取りだし、意味を理解することができる。比例、反比例の関係をグラフにし、特徴を調べることができる
		単元テスト8 (11月) 11月25日～ 単元まとめテスト	5章 平面図形 ①平面図形 ②作図 ④ 円とおうぎ形 ☆数検対策	平面上の直線、線分、角の意味とその表し方を理解することができる。直線の位置関係や図形の移動感が形を通して平面図形に対する見方を深める。
第三学期		単元テスト9 (1月)	6章 空間図形 ①空間図形 ②立体の表面積と体積	空間における直線や平面の位置関係を理解することができる。空間図形を平面図形の運動として構成的にとらえることができる。
		単元テスト10 (2月) 2月27日～ 単元まとめテスト	7章 資料の整理とその活用 ①資料の整理とその活用 ②累積度数 ③ことがらの起こりやすさ ☆1年間の復習・2年の予習	資料を整理したり、資料を読み取ってその特徴を捉えることができる。

単位数	5 単位
担当	高橋・プリヤンカ
教科書	Here We Go(光村出版)
対象生徒	中学 1 年

1. 授業の目標

- (1) 教科書の表現を利用して、自分の言葉で身の回りのことを表現できる英語力を身に着ける。
- (2) 自分に必要な課題を設定して、自ら学ぶ姿勢を養成する。
- (3) 教科書の内容を何度も繰り返し、聞く・書く・話す・読むことによって、中学英語の定着を図る。

2. 副教材・参考書

光村図書版 中学必修テキスト
光村図書出版 Here We Go ワークブック

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

予習のポイント：各 Unit の内容を音声で聞いて、音声から内容を理解する。

復習のポイント：その日に学習した Unit の内容を何度も聞いたり、音読したりする。暗唱できるぐらい音読することが英語力の土台を築くために重要である。
また、英語は日頃から自分で楽しく自己学習できる学習方法を模索することが大切なので、English Marathon という自己学習記録表を活用して、日々楽しみながら英語学習方法を継続できるように工夫をする。

4. 宿題・課題・再試・評価について

- ・ E' Range Test は隔週 1 回程度実施。70 点未満の者は再試をする。
- ・ 宿題は、音読・ワークブック・ライティング等を適宜課題として出す。
- ・ 単元テストは結果の 50% 未満は再試あり。

5. 評価の基準について

- ・ 単元テスト (50% の評価)、学力試験 (30% の評価)、パフォーマンス評価 (20%) により評価する。
パフォーマンス評価は英会話の授業での発表が 10% の評価、提出物が 10% の評価となる。
- ・ 以下の表のように観点別評価をつける。

	基本問題 (定期試験)	応用問題 (定期試験・発表)	パフォーマンス (提出物・小テスト等)
A	基本的な問題は概ね解くことができる。	高度な思考力を要する課題・問題に対応できる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。	知識を応用して課題・問題に取り組むことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	授業を応用した課題・テストにも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。

6. その他

- ・ English Marathon (学習記録表) を課す。自分にとって必要な英語課題を探して、毎日継続すること。

授業計画		
学期	単元テスト	授業内容（教材）
一学期	4月 単元テスト1	Round 1 Unit1～Unit3 までリスニングと文字と音声の一致 教科書本文のおおまかなストーリー理解が目標。繰り返し教科書本文の内容を聞き、それぞれの Unit のストーリーの概要や登場人物の特徴などを捉えることができる。
	5月 単元テスト2	Round2&3&4 Unit1 音読と教科書の内容定着 様々な活動を通して繰り返し音読をして、Unit1 本文の新出単語や本文の定着を図ることが目標。ここで、文法やライティング活動も取り入れる。
	6月 単元テスト3 単元テスト4	Round2&3&4 Unit2&3 音読と教科書の内容定着 様々な活動を通して繰り返し音読をして、Unit2&3 本文の新出単語や本文の定着を図ることが目標。ここで、文法やライティング活動も取り入れる。
	7月 まとめの単元 テスト	単元テスト1～4の内容をまとめるテスト。
二学期	9月 単元テスト5	Round 1 Unit4～Unit6 までリスニングと文字と音声の一致 教科書本文のおおまかなストーリー理解が目標。繰り返し教科書本文の内容を聞き、それぞれの Unit のストーリーの概要や登場人物の特徴などを捉えることができる。
	10月 単元テスト6 単元テスト7	Round2&3&4 Unit4&5 音読と教科書の内容の定着 様々な活動を通して繰り返し音読をして、Unit4&5 の本文の新出単語や本文の定着を図ることが目標。ここで、文法やライティング活動も取り入れる。
	11月 単元テスト8	Round2&3&4 Unit6 音読と教科書の内容定着 様々な活動を通して繰り返し音読をして、Unit6 の本文の新出単語や本文の定着を図ることが目標。ここで、文法やライティング活動も取り入れる。
	12月 まとめの単元 テスト	単元テスト5～8の内容をまとめるテスト。
三学期	1月 単元テスト9	Round 1 Unit7～Unit8 までリスニングと文字と音声の一致 教科書本文のおおまかなストーリー理解が目標。繰り返し教科書本文の内容を聞き、それぞれの Unit のストーリーの概要や登場人物の特徴などを捉えることができる。
	2月 単元テスト10	Round2&3&4 Unit7&8 音読と教科書の内容定着 様々な活動を通して繰り返し音読をして、Unit7&8 の本文の新出単語や本文の定着を図ることが目標。ここで、文法やライティング活動も取り入れる。
	3月 まとめの単元 テスト	単元テスト9～10の内容をまとめるテスト

中学1年 理科 (2024 年度)

単位数	3 単位
担当	山田 龍彦
教科書	未来へひろがるサイエンス 1 (啓林館)
対象生徒	中学1年生

1. 授業の目標

科学的現象についての実験・観察を行い、身のまわりの自然現象に関心を高め、基礎知識を身につける。

2. 副教材・参考書

新ワーク理科 1 (好学出版)

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

授業後にその日学習した内容について、教科書・ノートを見直し、復習をする。

副教材のテキストを解き、基礎用語を確認し、応用問題で分からないところは質問をする。

4. 宿題・再試について

宿題：定期的に問題集やノートを提出する。提出状況をパフォーマンス評価の対象とします。

長期休暇には、別問題集や自由研究などを宿題にします。

再試：単元別（まとめ）試験の点数が基準に満たない場合、再試験や課題を行います。

5. 評価の基準について

・定期試験(50%)、学力試験(30%)、パフォーマンス(20%)により評価をする。

・以下の表のように観点別評価をつける。

	知識・技能 基本問題(定期試験)	思考・判断・表現 応用問題(学力試験)	主体的に学習に取り組む態度
A	基本的な問題を概ね解くことができる。 (得点率 80%~100%)	高度な思考力を要する問題を解くことができる。 (得点率 80%~100%)	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題を解くことができる。 (得点率 30%~80%)	知識を応用して問題を解くことができる。 (得点率 30%~80%)	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	理解する努力を要する。 (得点率 0%~30%)	継続的な学習を要する。 (得点率 0%~30%)	主体的に参加する態度を要する。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業計画は予定であり、授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は既習範囲の復習を行う。

授業計画		
学期	試験	授業内容
一学期	単元①	[生物]いろいろな生物とその共通点 ・植物の特徴と分類 ・動物の特徴と分類
	単元②	[地学]活きている地球① ・身近な大地 ・ゆれる大地
二学期	単元③	[地学]活きている地球② ・火をふく大地 ・語る大地
	単元④	[化学]身のまわりの物質① ・いろいろな物質とその性質 ・いろいろな気体とその性質
	単元⑤	[化学]身のまわりの物質② ・水溶液の性質 ・物質のすがたとその変化
三学期	単元⑥	[物理]光・音・力による現象 ・光による現象 ・音による現象 ・力による現象

単位数	2 単位
担当	渡邊誠
教科書	・ 社会科 中学生の地理(帝国書院) ・ 中学校社会科地図(帝国書院)
対象生徒	中学 1 年

1. 授業の目標

- ・ 地球上の位置の表し方や、球面上の位置関係をとらえる力を身に付ける。
- ・ 世界の地域区分や国々の名前と位置などをもとに世界の地域構成を理解する。
- ・ 世界の気候と文化・産業などとの結びつきを理解する。
- ・ 各地域の特徴を押さえ、説明できるようにする。

2. 副教材・参考書

- ・ アドバンス 中学地理資料 (帝国書院)

3. 授業を受ける上での留意点・学習のアドバイス・予習、復習のポイント等

- ・ 急速に世界のグローバル化が進む中、世界の諸地域に関する教養を身につけ、世界の人びとと協同する力が求められている。中学 1 年次の地理では、主に世界の地理・地誌について学習する。現在の世界の様子を理解し、考えるためには地理の知識は必要不可欠である。自分と世界とのつながりを考えながら、積極的に授業へ参加する姿勢を養うことが必要となる。
- ・ 授業中に学んだことを、その日のうちに復習していくことが大切である。地理の基本的な用語は間違えることがないように、きちんと書き取る練習をしておくことよい。
- ・ 地理では、地図などの図版や数値のある資料を読み取り、活用する力をつけることを目指す。授業内で説明するので、よく聞いて復習するようにしてほしい。
- ・ 授業には B5 サイズのクリアファイルを持参し、必ず配布物の自己管理をすること。

4. 宿題・課題・再試について

- ・ 授業の内容・単元によっては、課題や調べ学習の宿題が出される。適宜、小テストを実施する。
- ・ 単元テストの結果が 50 点満点中の 25 点未満の場合は再試を受験しなければならない。
合格点は 25 点以上とする。
再試に代わる課題を課す場合もある。

5. 評価の基準について

- ・ 単元テストの平均点(50%)、外部試験(30%)、パフォーマンス評価(20%)により評価をする。
- ・ 上記の評価は歴史と地理を合わせたものとする。
- ・ 以下の表のように観点別評価をつける。

	単元テスト 基礎問題	外部試験 応用問題	課題・発表・提出物 パフォーマンス
A	基本的な問題を概ね解くことができる(得点率 80%～100%)	資料の読み取りや記述問題に対する解を、的確に表現できる(得点率 80%～100%)	授業やグループワーク、課題等に積極的に取り組み、自分自身の考えを伝えることができる
B	基本的な問題を解くことができる(得点率 80%～30%)	資料の読み取りや記述問題に取り組むことができる(得点率 80%～30%)	授業やグループワーク、課題等に協力し、活動ができる
C	基本的な問題を理解する努力を要する(得点率 0%～30%)	資料の読み取りや記述問題に向き合う姿勢が見られる(得点率 0%～30%)	授業やグループワーク、課題等に参加し、活動ができる
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

- ・ 授業計画はあくまで授業予定であるため、進度によっては変更することがある。
その場合は授業内で都度説明する。

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	単元 1	第 1 部 世界と日本の地域構成 第 1 章 世界の姿 1 私たちの住む地球を眺めて 2 いろいろな国の国名と位置 3 緯度と経度 4 地球儀と世界地図の違い 第 2 章 日本の姿 1 世界の中での日本の位置 2 時差でとらえる日本の位置 3 日本の領域とその特色 4 都道府県と県庁所在地
	単元 2	第 2 部 世界のさまざまな地域 第 1 章 人々の生活と環境 1 世界のさまざまな生活と環境 2 暑い地域の暮らし 3 乾燥した地域の暮らし 4 温暖な地域の暮らし 5 寒い地域の暮らし 6 高地の暮らし
	まとめ	
二学期	単元 3	第 2 部 世界のさまざまな地域 第 1 章 人々の生活と環境 7 世界各地の衣食住とその変化 8 人々の生活と宗教の関わり 第 2 章 世界の諸地域 1 アジア州
	単元 4	第 2 章 世界の諸地域 2 ヨーロッパ州 3 アフリカ州
	まとめ	
三学期	単元 5	第 2 章 世界の諸地域 4 北アメリカ州 5 南アメリカ州 6 オセアニア州
	まとめ	

社会（歴史）（2024 年度）

単位数	2 単位
担当	栗山
教科書	中学社会歴史(教育出版)
対象生徒	中学 1 年

1. 授業の目標

日本の歴史の大きな流れについて、世界の歴史とのかかわりも意識しながら学習します。資料の読み取りを通し、論理的な思考力を身に付けましょう。過去の歴史から現代へ続くことがらを整理し、「今に活きる」歴史の授業を展開します。

2. 副教材・参考書

・授業プリントを配布します。適宜、参考資料も配布します。

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・事前に教科書に目を通し、全体の把握を出来るようにしておきましょう。
- ・授業プリントを整理するノートを準備しましょう。B5 サイズのプリントが貼れるノートを 1 冊準備してください。
- ・適宜実施される小テストでは、語句の確認を丁寧に行いましょう。
- ・何かわからないことがあったら、すぐに質問に来てください。また、追加で学習したい等あればアドバイスをします。

4. 宿題・課題・再試について

- ・授業中の課題や発表などにも積極的に取り組んでください。
- ・語句確認の宿題プリントに取り組んでください。
- ・定期試験の結果が 50 点満点中 25 点未満の場合は再試を受験しなければなりません。

5. 評価の基準について

- ・単元テストの得点(50%)，学力試験(30%)，発表・ノート(20%)により評価をする。
- ・評価は歴史と地理を合わせたものとする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	単元テスト 基礎問題	外部試験 応用問題	課題・発表・提出物 パフォーマンス
A	基本的な問題を概ね解くことができる(得点率 80%～100%)	資料の読み取りや記述問題に対する解を、的確に表現できる(得点率 80%～100%)	授業やグループワーク、課題等に積極的に取り組み、自分自身の考えを伝えることができる
B	基本的な問題を解くことができる(得点率 80%～30%)	資料の読み取りや記述問題に取り組むことができる(得点率 80%～30%)	授業やグループワーク、課題等に協力し、活動ができる
C	基本的な問題を理解する努力を要する(得点率 0%～30%)	資料の読み取りや記述問題に向き合う姿勢が見られる(得点率 0%～30%)	授業やグループワーク、課題等に参加し、活動ができる
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他 授業の進度により、内容は変わることもあります

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	1	第 1 章 歴史のとらえ方・調べ方 第 2 章 原始・古代の日本と世界 ・人類の出現と文明のおこり
	2	・日本の成り立ちと倭の王権 ・大帝国の出現と律令国家の形成
	3	・貴族社会の発展

一 学 期	4	第3章 ・武家政治の始まり
	5	・ユーラシアの動きと武家政治の変化
	6	・結びつく民衆と下剋上の社会
二 学 期	7	第4章 ・結びつく世界との出会い
	8	・天下統一への歩み

単位数	1 単位
担当	横山 (副：永井 俊道)
教科書	駒沢学園の仏教 (駒澤学園) 道徳 1(光村図書)
対象生徒	中学 1 年

1. 授業の目標

駒沢学園の歴史と建学の精神を理解し、仏教主義学校としての理念を学ぶと共に、道徳に替わる教科として宗教に関する一般的な知識と教養を養い、興味関心を高めることにより、現代社会の諸問題に関する考察力を身に着ける。

〔中期目標〕

建学の精神・日々のお唱えの意味と目的を学ぶことにより、駒沢学園がめざす生徒像を理解すると共に、釈迦の生涯を学ぶことにより、仏教の持つ道徳的な考え方を理解し、自分で考え行動できるようになる。

〔長期目標〕

仏教を基盤とした道徳的な理念を理解し、より良き生きるためにどのように行動すべきか考えられるようになる。あわせて、「いのち」について考え、どのように生きていくことが大切か、各自が自分のこととして考えられるようになる。

2. 副教材・参考書

駒沢学園の仏教 (駒澤学園)

道徳 2(光村図書)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

朝礼や終礼・会食でお唱えする「三帰礼文」・「四弘誓願文」・「五観の偈」などを、丁寧に唱えましょう。また、式典への積極的な参加や挨拶や清掃など日々の活動を大切にすることが、授業の理解にもつながります。試験に向けては、テキストをきちんと読めるようになっておいてください。

4. 宿題・課題・再試について

宗教科の授業で取り上げる社会の諸問題に関する探究授業では、グループワーク・発表を含みます。

視聴覚教材を見ての、感想や意見などをロイロノートに提出します。

予習・復習課題は、ロイロノートに提出します。

坐禅実習には真剣に取り組みましょう。

5. 評価の基準について

・ 単元テストの得点(70%)、提出物と坐禅実習(30%)により評価をする。

評 価 方 法	割 合	評 価 基 準
単元テスト	8 0	単元テストの点数
提 出 物	2 0	授業ごとのまとめや課題、予習復習内容など。

・ 以下の表のように観点別評価をつける。

	定期試験	定期試験・提出物	提出物・坐禅実習
A	基本的な問題は概ね解くことができる。 70%～100%	思考的問題を解くことができる。論理的に自分の考えを表現できる。	坐禅実習に積極的に参加し、課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題が解くことができる。 40%～70%	知識を応用して問題を解くことができる。論理的に自分の考えを表現しようと努力している。	坐禅実習に積極的に参加し、多少遅れることもあるが、課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。 0%～40%	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。自分の考えを表現しようとしている。	坐禅実習に参加し、課題に対する意欲がある。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

・ 授業内容は、実際の授業時間数などにより、順番が前後したりすることもあります。

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	期末	1、「三帰礼文」の読みと意味を考える。 2、「花まつり」について【p 52～p 56】 ・「花まつり」が日本の季節の行事としてどのように受け入れられていたかについて学ぶ。 ・「花まつり」を題材として、「生命の誕生」とは何か、「いのち」とは何か考える。 3、「四弘誓願文」の読みと意味を考える。 4、「五観の偈」を通して、現代の食・食育についての問題点などについて考える。 5、坐禅実習
二学期	期末	1、「追善記念日」について【p 57】 ・学校行事としての「追善記念日」 ・「死」とはどのようなことか考える。 ・日本人は死についてどのように考えたのか、「地獄」・「極楽」などと結びつけながら学習する。 2、道元の生涯について（1） ・誕生から中国での中業の要すまでを学習し、道元の悩みと行き方について、現代社会での問題と照らし合わせて考える。 3、「摂心会」と「成道会」について【p 58～p 61】 ・学校行事としての「摂心会」と「成道会」 ・摂心会が日本にどのように取り入れられてきたのか考える。 ・自分の生きる目的や意義について考える。 4、写経・写仏 5、坐禅実習
三学期	学年末	1、「誕生記念日」について【p 62～p 63】 ・学校行事としての「誕生記念日」について考える。 2、「涅槃会」について【p 64～p 65】 ・学校行事としての「涅槃会」について考える。 3、道元の生涯（2） ・日本に戻ってからの道元の生き方について考える。 4、「山上忌」について【p 66～p 67】 ・学校行事としての「山上忌」について考える。 5、坐禅実習

保健体育 (2024 年度)

単位数	3 単位
担当	二見
教科書	
対象生徒	中学 1 年

1. 授業の目標

運動の楽しさや喜びを味わい、基本的な技能を身に付ける。
運動を通して体力の向上を図る。
競走や協同の経験を通して公正さ・協力性・自分の役割を知ることが育てる。
生涯を通しての健康の大切さを学ぶ。

2. 副教材・参考書

ステップアップ中学体育（大修館）

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

ケガのないように準備運動をしっかりと行う。
説明をしっかりと聞き、安全を第 1 に考える。

4. 宿題・課題・再試について

各運動における競技施設やルールについて調べ学習をおこなう。

5. 評価の基準について

- ・実技試験 1（40%）、実技試験 2（50%）、課題提出（10%）により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	実技試験 1	実技試験 2	パフォーマンス (提出物・小テスト等)
A	80%～100%	80%～100%	80%～100%
B	30%～80%	30%～80%	30%～80%
C	0%～30%	0%～30%	0%～30%
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業計画（ダンス）		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	実技	駒女体操 順番を覚える からだ作り 柔軟 ストレッチ 筋トレ
二学期	実技	マット運動 前転 後転 開脚前転 開脚後転 倒立前転 側方回転 跳び箱 開脚飛び（縦・横）横跳び
三学期	実技	創作ダンス グループ分け・選曲・創作 発表会

授業計画（スポーツ）		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	実技	スポーツテスト 50M走・ハンドボール投げ・立ち幅跳び 体育祭種目練習 水泳 クロール・平泳ぎ
二学期	実技	バスケットボール ドリブル・パス・シュート チェストパス ドリブルシュート レイアップシュート ゲーム 持久走 グラウンド3周・5周
三学期	学実技	バレーボール パス サーブ ゲーム 縄跳び 縄跳び検定

単位数	2 単位
担当	八木（家庭）
教科書	NEW 技術・家庭（教育図書）
対象生徒	中学 1 年

1. 授業の目標

健康的な食生活に関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、生活の中の課題を見つけ、解決方法を考える力を養う。

2. 副教材・参考書 ・エプロン製作 ・基礎縫いキット

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

・授業内容に集中し、プリントや課題に取り組み、提出期限までに作品が仕上がるよう努力する。

4. 宿題・課題・再試について

・授業プリント、課題、実習などの提出物をパフォーマンス評価の対象とする。

・試験の結果が 50 点未満の場合、課題を課す。

5. 評価の基準について

・1 学期はエプロン作品（80％）、実習記録（10％）、課題（10％）、2 学期は中学まとめテストの得点（80％）、課題（20％）、3 学期は中学まとめテスト（80％）、基礎縫い作品（10％）、課題（10％）により評価をする。

・以下の表のように観点別評価をつける。

	中学まとめテスト	課題プリント	パフォーマンス(提出物)
A	基本的な問題を解くことができる。	高度な思考・表現ができる。	完成度の高い作品を製作できる。
B	基本的な問題を概ね解くことができる。	知識を生かした表現ができる。	工夫を凝らして作品製作に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識を理解している。	懸命に取り組む努力がみられる。	作品に取り組む意欲を感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	なし	・家庭分野の学習について 実習：エプロン製作（ミシンの扱い方、安全に実習を行うための注意事項）
二学期	中学まとめ テスト	B 編 1 章 健康と食生活 ・食事の役割を考えよう ・健康によりよい食習慣について考えよう B 編 2 章 何をどれだけ食べたらよいか ・栄養素の種類と働きを知ろう ・中学生に必要な栄養の特徴を知ろう ・食品に含まれる栄養素を調べよう ・一日に必要な食品の種類や概量を知ろう ・一日分の献立を考えよう 実習：調理実習（安全に実習を行うための注意事項）
三学期	中学まとめ テスト	B 編 4 章 私たちの衣生活 ・衣服の働きを知ろう ・目的に合わせて自分らしく着よう ・衣服を計画的に活用できるようにしよう ・自分に合った衣服を手に入れよう 実習：基礎縫い（安全に実習を行うための注意事項）

中学 1 年 音楽 (2024 年度)

単位数	2 単位
担当	平田亮介
教科書	中学生の音楽 1 (教育芸術社)
対象生徒	中学 1 年

1. 授業の目標

音楽活動を通して、表現の能力を高めるとともに、音楽を愛する心を育む。
音楽の構造に関心を持ち、主体的に表現を工夫して取り組む。

鑑賞を通して、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

2. 副教材・参考書

中学生の器楽 (教育芸術社)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

合唱、合奏はクラスで一つのもので作り上げることを主とするので、授業では指示や説明をしっかりと聞き、集中するよう心がける。(授業準備なども含む)
実技 (歌唱、リコーダー) の上達に向けて、積極的に授業に参加することが望ましい。
プリント類などの提出物は期限内に提出する。
授業内筆記テスト前には確認プリントを復習してから受験する。
歌唱や器楽の練習の参考になる音源や動画を使い、授業の振り返りを行う。

4. 宿題・課題・再試について 授業中に終わらなかった課題は宿題とする。

5. 評価の基準について

学期毎に授業内で筆記テスト (小テスト) と実技テスト (歌唱、リコーダー等) を行い、実技テストを重視する。 実技試験の評価基準は、指導の中であらかじめ生徒に伝える。
以下の表のように観点別評価をつける。

	筆記テスト、 実技 (歌唱、リコーダー)	実技 (歌唱、リコーダー) 鑑賞	授業に対する取り組み方 課題、提出物
A	100%～80%	100%～80%	100%～80%
B	80%～30%	80%～30%	80%～30%
C	30%～0%	30%～0%	30%～0%
	知識、技能	思考、判断、表現	主体的に取り組む態度

6. その他 授業計画は予定であり、内容が変更となる場合がある。

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	期末	歌唱 校歌、We' ll find the way～はるかな道へ～、その先へ、 主人は冷たい土の中に 鑑賞 春 第1楽章 楽典 音符の種類と長さ、音部記号、リズムゲーム 創作 マイメロディー
二学期	期末	器楽 (アルトリコーダー) 喜びの歌、さんぽ道、かっこう 歌唱 浜辺の歌、赤とんぼ、仏教聖歌 (道元禅師賛歌、成道会の歌、四弘誓願文) 合唱 マイバラード 鑑賞 ジョーズのテーマ 魔王 創作 レッツクリエイト
三学期	学年末	器楽 (アルトリコーダー) そっとやさしく、カノン1、カノン2 合唱 音楽発表会に向けて 鑑賞 「日本の民謡」、「アジアの諸民族音楽」 楽典 音名、拍子

中学 1 年美術（2024 年度）

単位数	2 単位
担当	高橋 千草
教科書	美術 1 年 光村図書
対象生徒	中学 1 年

1. 授業の目標

- (1) 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。
- (2) 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。
- (3) 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。

2. 副教材・参考書

特になし

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・授業内で疑問を解決し、計画的に作品を完成できるような姿勢で参加することが望ましい。
- ・授業を欠席した場合は提出期限前までに放課後自主的に不足分を補う事が望ましい。
- ・課題制作の上で試行錯誤しながらも粘り強くチャレンジする姿勢が望ましい。
- ・課題は期限までに完成させ必ず提出する。

4. 宿題・課題について

- ・授業内で課題が完成されない場合は宿題となる。

5. 評価の基準について

- ・各学期の課題（提出物 100%）により 評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける

	課題（作品）	課題（作品）	作品に対する取り組み方
A	対象や事象を捉える造形的な視点について深く理解している。表現方法を創意工夫し、創造的により深く表している。	造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて深く考えと共に、主題を生み出しより豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的により深く表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。
B	対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えと共に、主題を生み出し豊かに発想し構想をし、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。
C	対象や事象を捉えている。 表現している。	造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて知ると共に、主題を生み出し発想し構想をし、美術や美術文化を感じている。	美術の創造活動を行い表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。
	知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業計画は予定であり、授業の進捗状況臨時休校により課題の増減がある場合もある。
リモート授業等で授業内容の変更あり

	授業計画
1 学期	鑑賞 絵画・色彩 絵画（水彩）
2 学期	絵画（抽象・鑑賞） 立体(木工)
3 学期	デザイン（文字・マーク） 工芸・色彩（フェルト）

単位数	1 単位
担当	権、栗山, 山本
教科書	オリジナルプリント
対象生徒	中学 1 年生～中学 3 年生

1. 授業の目標

- ①韓国語の基礎を習得し、日常の挨拶や自己紹介を韓国語でできるようにする。
- ②韓国の文化や生活に興味を持って、日本との違いを比較してみる。

2. 副教材・参考書

オリジナルプリント

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

授業で配布するプリントをファイリングして、毎回の授業に持ってくること。
授業で学んだ韓国語表現を家庭でも発音してみること。

4. 宿題・課題・再試について

りんどう祭に向けて、調べ学習やプレゼン用のスライド作成など課されることがある。

5. 評価の基準について

授業への出席状況によって評価する。

6. その他

授業計画	
学期	授業内容（教材）
前期 (りんどう祭まで)	1. 韓国語の挨拶 2. 韓国語で自己紹介 3. 韓国語の発音(母音と子音のしくみ) 4. ハングル文字の書き方 5. 韓国の文化と生活 6. K-POP について 7. 基本的な韓国語の文法 8～15. りんどう祭に向けての発表準備

単位数	1 単位
担当	中村、鈴木、高橋
教科書	オリジナルプリント
対象生徒	中学 1 年生～中学 3 年生

1. 授業の目標
- ①中国の音声と音のしくみに親しみ、日常の挨拶や自己紹介を中国語でできるようにする。
- ②中国の文化や生活に興味を持って、日本との違いを比較してみる。
2. 副教材・参考書
- オリジナルプリント
3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等
- 授業で配布するプリントをファイリングして、毎回の授業に持ってくること。
- 授業で学んだ中国語表現を家庭でも発音してみること。
4. 宿題・課題・再試について
- りんどう祭に向けて、調べ学習やプレゼン用のスライド作成など課されることがある。
5. 評価の基準について
- ・授業への出席状況によって評価する。
6. その他

授業計画	
学期	授業内容（教材）
前期 (りんどう祭まで)	1. 様々な中国語の挨拶 2. 中国語で自己紹介 3. 中国の発音(ピンインと声調のしくみ) 4. 簡体字と繁体字 5. 中国の文化と生活 6. 中国語の歌 7. 基本的な中国語の文法 8. りんどう祭に向けての発表準備

単位数	1 単位
担当	石鎚, 平田, 山口
教科書	特になし
対象生徒	中学 1 年生～中学 3 年生

1. 授業の目標

フランス語とともにフランスの文化に興味を持ち自ら探究し、その魅力を発信できるようになることを目標とする。言語そのものでは、日常に溢れるフランス語を見つけ、その読み方・響きに慣れていく。最終的にはフランス語で自己紹介が出来たり、旅行をした際に現地の人と最低限のコミュニケーションができるようにする。

文化の面では、絵画や音楽等の芸術、料理、ファッションなど、フランス由来のものが何かをまず知り、それらの魅力を探っていく

2. 副教材・参考書

とくになし。教員作成の資料など

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

フランス語独特の響き、リズムがあります。積極的に発音をして楽しんでいきましょう。

4. 宿題・課題・再試について

りんどう祭前には、発表資料の作成などがあります。

5. 評価の基準について

・授業への出席状況によって評価する。

6. その他

授業計画	
学期	授業内容 (教材)
前期 (りんどう祭まで)	① オリエンテーション、ABC
	② 基本的な挨拶 1、体調を尋ねる
	③ 基本的な挨拶 2、名前を名乗る
	④ 国籍を述べる
	⑤ ②③④をもとに簡単な自己紹介をする (挨拶/名前/国籍)
	⑥ 「～が好きである」 1 J'aime+物
	⑦ 「～が好きである」 2 J'aime+動詞
	⑧ 「～が大好きである」、「～に住んでいる」
	⑨ ⑥⑦⑧をもとに少し踏み込んだ自己紹介をする (挨拶/名前/居住地/好きなこと/大好きなこと/よろしくお願いします)
	⑩ 「～お願いします」 (～s'il vous plaît.)、数の表現
	⑪ ⑩をもとにマルシェで買い物をする会話 1
	⑫ ⑩をもとにマルシェで買い物をする会話 2
	⑬ りんどう祭に向けて 自己紹介 (フランス語) と文化についての発表 (日本語) を行う ・授業: 少し踏み込んだ自己紹介 (⑨) を発表に向けて復習・練習する 余裕があれば「シェルブールの雨傘」というミュージカル映画を細切りに鑑賞する ・グループワーク: 3つの班に分かれフランスのグルメ、観光地、美術について調べ、発表用にまとめる